

連盟だより

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

Japan Federation for Mental Health and Welfare



2021-10. 1

通刊 71号



東京都立松沢病院長に就任して

東京都立松沢病院 院長 水野雅文

2021年4月より東京都立松沢病院院長に就任いたしました水野雅文と申します。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が長期に及び、行動抑制を続ける日々ストレスも増すばかりです。感染者・ご家族の方々にはお見舞い申し上げますとともに、感染症医療の一線でご活躍されている方には心より感謝と敬意を表します。

歴史ある病院の舵取りを引き継ぎ、文字どおり身の引き締まる思いで日々を過ごしています。コロナ禍の収束により、早く精神科医療の本来業務に専念したいと願っています。

精神科医療の大きな流れは、入院治療中心の医療から地域ケア中心へと進んでいます。しかし入院医療の必要がなくなるわけではありません。松沢病院の医療も、まず入院から、まず保護室から、という統合失調症モデルからの脱皮をはかり、早期発見、早期支援により重症化を逃れ、時宜を得た治療によって入院期間を短くし、できる限り地域生活を送って頂ける精神科医療のあり方を探っていきたくと考えています。地域の医療・保健・福祉資源との信頼関係があればこそ連携が強くなり、入院において短くも良質で集中的な急性期医療を提供できます。一方、精神疾患の中には、療養が長期にわたるのを避けられない病態があるのも確かです。精神疾患に罹っても、一般市民の方々と同じ水準の身体科医療を享受でき、多くの時間を過ごす生活の場のあり方も、現代日本の生活水準に見合ったものとなるべきでしょう。

ここで、松沢病院の沿革を簡単に御紹介させていただきます。

東京都立松沢病院の歴史は、1879年に創立された東京府癲狂院に始まるとされています。1872年、東京府知事は、路上生活者等を収容する施設として本郷に營繕会議所付属養育院を設立しました。養育院に収容された人の中には、多くの精神障害者が含まれており、次第に精神障害者は別の施設に移して処遇すべきだという意見が強まります。その結果、1879年10月10日、養育院の癲狂室という部署が独立して、東京府癲狂院が生まれました。

1889年に、「東京府癲狂院」は移転に伴い「東京府巢鴨病院」と改称されました。

1901年、クレペリンのもとでの留学から帰国し第5代巢鴨病院院長に就任した呉秀三は、私宅監置の止まない中、自らが理想とする精神科医療を実践すべく、留学先のヨーロッパで見聞した精神障害者のためのコロニーに倣い、複数の小規模病棟、患者が働くための農場と作業所を有する病院を目指しました。1919年精神病院法が制定され、精神障害者を病院へ収容して治療することが定められ、この年11月7日、患者一人につき100坪、7万坪の土地が必要であるとの考えのもと、荏原郡松沢村、現在の世田谷区上北沢へ移転し、東京府立松沢病院と改称しました。

松沢病院では1984年にリハビリテーション科を開設し、精神科デイケアが始まりました。松沢病院の伝統である非生物学的な治療、すなわち心理社会的治療においても、その体制が強化されていきました。1978年には夜間休日精神科救急事業、1981年には精神科身体合併症事業が開始され、松沢病院は当初から参画してきました。2010年には医療観察法病棟が運用開始となりました。松沢病院独自の取組としては、『バックベッド契約』という協定を都内の複数の指定通院医療機関と結んでいます。これは、クリニックなどの病床を持たない医療機関にも指定通院医療機関としての指定を受けていただき、通院処遇の対象者が、入院が必要になった際に松沢病院が優先的に受け入れるという協定を結ぶことで、対象者の円滑な地域移行を促進するという取組です。

2012年には7階建免震構造の本館診療棟が完成し、入院、外来の機能が充実しました。以来、地域の御依頼を断らない、オープンホスピタルとして地域に開け、患者さんに選ばれる病院を目指しつつ、必要とされる行政的医療の提供も行っていました。

今後も、今日的な多様なニーズに応える病院を目指してまいります。松沢病院内には日本精神医学資料館があり、呉が使用を禁じた拘束具など歴史的な様々な資料が展示されていますので、みなさまにご来館いただければ幸いです。

記念講演会「精神障がい者スポーツの現状と未来」を開催して

(公社)日本精神保健福祉連盟 常務理事 **大西 守**

いよいよ東京 2021年記念講演会「精神障がい者スポーツの現状と未来」-2021年以降に向けて-が、(公社)日本精神保健福祉連盟主催で開催されました。本来は昨年4月に会場に参集しての開催予定だった企画ですが、コロナ禍の影響で延期となり、今回はオンデマンドでの開催が実現でき、当連盟ホームページ上において、2021年3月5日(金)より3月11日(木)、4月23日(金)より4月29日(木)まで、2回にわたって配信されました。

周知のとおり、2020年は東京パラリンピック競技大会が開催される予定でしたが、2021年に延期・開催となりました。とはいえ、従来以上に多くの国民が障がい者スポーツに関心が集まっていることが実感できます。残念ながら、パラリンピック競技大会において精神障がい者向けの正式競技種目はありませんが、障がい者スポーツの活性化に向けて、その成功を強く期待しているところです。

日本での精神障がい者スポーツの振興は、全国障害者スポーツ大会への参加、国際大会の開催など、競技種目の拡大・国際化など着実に進められてきました。本講演会では、精神障がい者スポーツにも多くの目を向けてもらえる企画でした。精神障がい者の各競技種目の現状を報告いただくとともに、2021

年以降を見据えた精神障がい者スポーツの未来に関して多角的に語っていただきました。

まず、大西守より挨拶と開催趣旨説明があり、その後(順不同)「精神障がい者スポーツの現状と課題」について大西守から、「精神障がい者バレーボール」について田所淳子氏(高知県女性相談支援センター精神保健福祉士)から、「精神障がい者サッカー・フットサル」について佐々毅氏(NPO法人日本ソーシャルフットボール協会理事長)から、「精神障がい者バスケット」について鎗田英樹氏(NPO法人ソーシャルバスケットボール協会理事長)から、「精神障がい者卓球」について高畑隆氏((公社)日本精神保健福祉連盟理事・(一社)全国精神保健連絡協議会理事)からご発言がありました。

さらに、Zoomで特別対談「パラスポーツは力を呉れる」と題して、大西守が聞き手となって、五輪メダリストでメンタルトレーナーの田中ウルヴェ京氏から50分間熱く語っていただきました。田中ウルヴェ氏の人柄もあり、ご自身のご苦勞を披露しつつ「とても癒された」と好評でした。

コロナ禍の収束がなかなか見えてこないなかですが、当連盟としても今後ともオンデマンドによる積極的な情報発信を計画する予定です。

WEB講演会 (オンデマンド配信)  いよいよ東京 2021年 記念講演会

「精神障がい者スポーツの現状と未来」 —2021年以降に向けて—

動画公開期間

第一期
2021年3月5日(金)~3月11日(木)

第二期
2021年4月23日(金)~4月29日(木)



田中ウルヴェ 京さんの
(五輪メダリスト・メンタルトレーナー)
Zoomによる特別対談も!

主催：(公社)日本精神保健福祉連盟

参加費：無料 (誰でも自由に視聴可)
※お手持ちの視聴する機器 (パソコン・スマートフォン・タブレット) 等で視聴いただく講演会です。

参加方法：裏面のQRコードを読み込む、またはURL (<https://f-renmei.kngh.jp/>) を入力してアクセスしご視聴下さい。


●ご参加は以下のQRコードかURLからアクセスを

お問い合せ：
いよいよ東京2021年記念講演会 実行委員会 事務局
公益社団法人日本精神保健福祉連盟内
TEL：03-5232-3308 FAX：03-5232-3309
E-mail：f-renmei@nisseikyo.or.jp

<https://f-renmei.kngh.jp/>

「精神障がい者スポーツの現状と未来」 —2021年以降に向けて—

- 挨拶 (開催趣旨説明)
公益社団法人日本精神保健福祉連盟 常務理事 大西 守
- 現状報告
「精神障がい者スポーツの現状と課題」
大西 守 (公益社団法人日本精神保健福祉連盟 常務理事)
「精神障がい者バレーボール」
田所 淳子 (公益社団法人日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会委員)
「精神障がい者サッカー・フットサル」
佐々 毅 (NPO法人日本ソーシャルフットボール協会 理事長)
「精神障がい者バスケットボール」
鎗田 英樹 (NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会 会長 / 帝京平成大学 健康医療スポーツ学部作業療法学科准教授)
「精神障がい者卓球」
高畑 隆 (公益社団法人日本精神保健福祉連盟理事 / 一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会理事)
- Zoomによる特別対談
「パラスポーツは力を呉れる」
語り手：田中ウルヴェ 京 (五輪メダリスト・メンタルトレーナー)
聞き手：大西 守 (精神科医)



●ご参加は以下のQRコードかURLからアクセスを

お問い合せ：
いよいよ東京2021年記念講演会 実行委員会 事務局
公益社団法人日本精神保健福祉連盟内
TEL：03-5232-3308 FAX：03-5232-3309
E-mail：f-renmei@nisseikyo.or.jp

<https://f-renmei.kngh.jp/>



茨城県精神保健福祉センターの動き

動き

movement

茨城県精神保健福祉センター センター長

佐々木恵美

茨城県精神保健福祉センターは、相談援助課と精神医療福祉課の2課体制になっています。相談援助課では、一般相談のほか、地域自殺対策推進センター、依存症（アルコール、薬物、ギャンブル）相談拠点、ひきこもり支援、災害時こころのケア、人材育成（各種研修）等を担当しています。研修やグループ活動は昨年3月からオンラインを利用して継続しています。新型コロナウイルス感染症対応で関係機関の皆様は日々ご尽力されていることと存じますが、当センターでも昨年4月に発足した「県コロナ関連メンタルヘルス対策協議会」において一般県民相談・支援、リーフレットによる広報等を継続して行っています。

相談援助課で特に力を入れているのは、自殺予防対策及び依存症対策です。地域自殺対策推進センターは電話相談窓口である「いばらきこころのホットライン」を設置しており、昨年6月から電話回線を増設し、高リスク例は関係機関とともに緊急対応を行っています。また、市町村への自殺対策計画の策

定支援を積極的に進めています。依存症相談拠点では関係機関と連携しながら相談業務、回復支援プログラムを実施しているところですが、来年度はゲーム依存を対象とする新事業の立ち上げを検討中です。

精神医療福祉課では、福祉手帳や自立支援、精神医療審査会の事務、地域支援等のほか、センターとしては珍しく夜間および土日祝日における全県の23条通報対応、救急コールセンター窓口業務、緊急措置入院後の本措置業務、後方転院の手配・移送といった精神科救急業務を担っています。また、措置診察不要としたケースも可能な限り地域や医療につないでおり、スキルアップのため課内および県警や病院等との症例検討も定期的に開催しています。少人数体制ではありますが、今後は退院後支援、保健所とのケース検討等も進める予定です。さらに、県民のためにより充実したきめ細かい精神科救急体制の構築を目指し、関係各機関と検討を行っているところです。



大分県こころとからだの相談支援センターの動き

動き

movement

大分県こころとからだの相談支援センター 所長

土山幸之助

大分県こころとからだの相談支援センターは、大分県精神保健福祉センター、大分県身体障害者更生相談所、大分県知的障害者更生相談所からなります。大分県精神保健福祉センターでは通常業務に加えて、緊急時の心理的支援を行なっています。これまでは学校危機時、災害対応が主たるものでしたが、昨年度から新型コロナウイルス感染症に関連するメンタルヘルス対策が加わっています。

新型コロナウイルス感染症に関するメンタルヘルスの業務では、当センター職員や大分県公認心理師会会員がチームを組み、感染が発生した施設に出向して支援します。対象は主に支援者（医療従事者、教職員・保育関係者、高齢者施設職員等）です。支援時期は、感染が落ち着き、通常業務の再開前で、管轄の県保健所とともに訪問します。業務内容は管理職への助言、心理教育、個別相談です。これまでに医療機関4カ所、学校・保育機関3カ所、高齢者施設2カ所への支援を行ないました。また当事者へ

の支援として宿泊療養者のうち必要と思われる方や希望者に、当センター職員がホテルに出向き、スカイプや電話での相談に応じています。

心理教育は以下の様な点を伝えていきます。「基本的には、多くの個人には回復する力が備わっている」という考え方をとり、さまざまな反応が生じたとしても必ずしも病気と考える必要はない。一過性の反応が出現するかもしれないが、多くの場合は時とともに回復する。仮に反応が出現した場合にもいくつかの対処法がある。反応の強さには個人差がある。反応が激しかったり、長引いたりする場合は是非相談をしてほしい。その場合の相談先（当センターの予約相談電話など）を知っておいて欲しい。

新型コロナウイルス感染症の蔓延下でも支援を受けられること、相談できる場所があることを十分に周知していくことが大切であると考えています。支援を受ける方の心理的な孤立を如何に防ぐかが支援の眼目です。

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟 加盟団体(社員名簿)

〒108-0023 東京都港区芝浦3-15-14 日精協会館内
 TEL 03-5232-3308 FAX 03-5232-3309
 会長 鮫島 健 理事長 鹿島 晴雄

令和3年8月現在

種類	名称	所在地	TEL/FAX	代表者
公益 財団法人	日本精神衛生会	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-1-10 メディアビル3F	03-3518-9524 03-3518-9524	理事長 小島 卓也
公益 社団法人	日本精神科病院協会	〒108-8554 東京都港区芝浦3-15-14	03-5232-3311 03-5232-3309	会長 山崎 學
公益 財団法人	復光会	〒273-8540 千葉県船橋市市場3-3-1	047-422-3509 047-423-0432	理事長 松本 雄策
公益 財団法人	矯正協会	〒165-0026 東京都中野区新井3-37-2	03-3319-0640 03-3319-0643	会長 藤本 哲也
一般 社団法人	全国精神保健福祉連絡協議会	〒102-8554 東京都千代田区紀尾井7-1 上智大学グリーンフケア研究所内	03-3238-3776 03-3238-4661	会長 竹島 正
公益 社団法人	全日本断酒連盟	〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-2-2 エスコート神田岩本町101号	03-3863-1600 03-3863-1691	理事長 伊藤 聰
一般 社団法人	日本精神科看護協会	〒108-0075 東京都港区港南2-12-33 品川キャナルビル7階	03-5796-7033 03-5796-7034	会長 吉川 隆博
公益 社団法人	アルコール健康医学協会	〒113-0033 東京都文京区本郷3-25-13 グラン、フォークスV本郷ビル4階	03-5802-8761 03-5802-8763	理事長 田中 慶司
公益 社団法人	日本精神神経科診療所協会	〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-38-2 ミヤタビル701	03-3320-1423 03-3320-1426	会長 三木 和平
公益 社団法人	日本精神保健福祉士協会	〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F	03-5366-3152 03-5366-2993	会長 田村 綾子
一般 社団法人	全国手をつなぐ育成会連合会	〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-17-6 第三和幸ビル2F-C	03-5358-9274	会長 久保 厚子

〈編集後記〉

連盟だよりNo. 71をお届けします。

新型コロナウイルス感染症の猛威はやまず、当連盟としてもその対応に苦慮しています。

さてこうした状況下、都立松沢病院院長に就任された水野雅文先生より、ご玉稿をいただきました。松沢病院の歴史的経緯を踏まえ、コロナ禍での公的精神科病院の機能に関して、改めて思い知らされました。

東京オリンピック競技大会は賛否あるなか、原則無観客で開催されました。また執筆時点において、東京パラリンピック競技大会の開催も着実に準備が進められています。障がい者スポーツの理解が一層高まることを願うばかりです。

コロナ禍の影響はまだまだ続きそうです。会員各位のご健康を祈念するとともに、一層のご協力をお願い申し上げます。

(M.O.)

編集委員会

委員長 大西 守 公益社団法人日本精神保健福祉連盟常務理事
 委員 高畑 隆 一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会監事
 窪田 澄夫 一般社団法人日本精神科看護協会業務執行理事
 中田 貴晃 キューブ・インテグレーション株式会社取締役
 松井 知子 杏林大学元教授

発行 2021年10月1日

発行者 公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

会長 鮫島 健

〒108-8554 東京都港区芝浦3-15-14

TEL 03-5232-3308 FAX 03-5232-3309

Email : office-renmei@f-renmei.or.jp

HP : <http://www.f-renmei.or.jp/>